記者懇談会の記録

日　時	令和 5 年 7 月 28 日（金）15：30～16：00
場　所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-5
記者数	6 人

1　市民参加の防災訓練について

（市長）

市民参加の防災訓練は、平成 17 年度から実施をしています。平成 24 年度までは、関係機関のパネル展ですとか、岩見沢地区消防事務組合の救護訓練などの様子を参加者に見ていただく「見る訓練」を中心に行っていたところですが、参加者の皆さんからも、自分たちも実際に体験をしたいというような要請を多くいただいたことから、平成 26 年度より、防災関係機関や災害協定を結んでいる企業・団体などから協力をいただきまして、ロープワーク体験、煙体験、障がい者の介助体験など、参加者が「体験する訓練」を中心にした訓練内容に見直しをして、実施をしてきました。

この市民参加の防災訓練は、令和元年度に志文小学校で実施して以来、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催を中止していました。今年度は、4 年ぶりの開催になります。地域とも協議を重ねており、中央小学校を会場に 8 月 5 日土曜日午前 8 時から訓練を実施する予定としています。

現在、24 の防災関係機関、企業・団体の参加を予定しておりまして、31 の体験・展示ブースを設け、訓練を実施する予定です。訓練規模については、関係者 150 名、西部地区、中央小学校の近辺ですが、地域住民 150 名合わせて約 300 名規模の訓練を予定しています。

市といたしましては、この訓練でのパネル展示や防災関連商品の展示などにより、防災関係機関、企業・団体の防災・減災に関する取り組みを広く知っていただくとともに、防災関連商品にも実際に触れていただいて、参加者それぞれが必要な備蓄なども考えていただきたいと思っていますし、各家庭で必要なものを備える参考になればと思っています。

また、参加者が実際に様々な訓練を体験することにより、防災・減災に必要な知識や技能を身につけることができ、さらには、地区単位で訓練を実施することによって、避難場所や避難ルートの確認がなされるなど、地域の防災力の向上にもつながると考えています。

今後もこのような訓練を通して、市民一人一人の防災・減災意識の高揚を図るとともに、地域と連携をより図りながら、地域の防災力を強化する取り組みを進めてまいりたいと考えています。

＜質疑応答＞

（朝日新聞）

基本的なところで申し訳ないのですが、防災訓練は通常、関東大震災が起きた 9 月 1 日が多いかと思うのですが、8 月 5 日というのは、岩見沢では何かこの日に意味があるのでしょうか。

（市長）

いえ、特に意味はなくて、ただ、夏休み期間中に学校を会場として訓練を実施するケースが多いので、どうしても夏休み期間中の実施ということで、大体８月の上旬になります。

（プレス空知）

参加したい場合、申し込みなどは必要でしょうか、それと、この地域以外、別の地域からの参加も可能なのでしょうか。

（市長）

それは可能です。参加申し込みを受け付けている訳ではなく、広く周知をして、参加できる方にお集まりをいただく、そこで実際に体験していただく、ということになるので。ただ中心となるのはその地域の方々が中心になるかとは思っていますけれども。

（プレス空知）

今年新しく参加される企業さんですとか、何か初めての体験ブースなどはありますか。

（市長）

企業、団体、関係機関の皆さまはそれぞれ協定を結んでいる方々で、いろいろとこれまでもご協力いただいてきているところですが、4 年ぶりの開催ということもあり、今年は消防事務組合から新しい梯子車の確か搭乗が、訓練ですけれども、これは初めてになるかと思います。

2　JR 室蘭線における「調査・実証事業」の実施について

（市長）

JR 室蘭線ですが、平成 28 年に JR 北海道が単独では維持することが困難であると公表した、いわゆる黄色８線区のうちの一つとなっております。これまで令和元年度から令和２年度までの第１期アクションプランにおいて、持続的な鉄道網の確立に向けた交通体系の検討が進められ、その後を受けた令和３年度から令和５年度までの第２期アクションプランにおいては、JR 北海道と地域が一体となって、利用促進やコスト節減の取り組みを進めているところです。

この間、室蘭線においては、沿線に５つの市町があります。岩見沢市、栗山町、由仁町、安平町、苫小牧市ですが、この沿線５市町により、JR 室蘭線活性化連絡協議会を平成 30 年に設立しています。鉄路の存続に向けて JR 北海道との協議を行ってきたほか、アクションプランの実現に向けて、SNS による情報発信やフォトコンテストなどの利用促進に向けた取り組みを進めてきたところです。

今回の「調査・実証事業」では、第２期アクションプランを進めるにあたり、国や道の支援を受けながら、各線区の協議会が主体となって実施するものであり、室蘭線については、岩見沢市が事務局となっている JR 室蘭線活性化連絡協議会が実施主体となります。

そこで事業内容ですが、大きく分けて４つの事業を実施します。

まず、室蘭線沿線にお住まいの方と、室蘭線を利用して通学する高校生に対して、室蘭線及び

並行バス路線の利用ニーズを把握するための「アンケート調査」を実施します。

2つ目は、室蘭線と沿線自治体を運行するバス路線を含めた「鉄道・バスの共通時刻表」を作成して、公共施設等へ配架するほか、各市町で広報や行政回覧などを活用して、沿線住民の方々への周知を行っていくこととしています。

以上の2つについては、黄色8線区で共通して行う事業内容となっています。アンケート調査の内容等については、その結果については全道規模で集計・分析が行われて、第2期アクションプランの報告にも活用される予定です。

次に、室蘭線独自の事業となりますが、札幌圏からの観光利用を促進することを目的に、JR北海道の発行する一日散歩きっぷを利用する方が、並行バス路線を無料で利用することのできる取り組みを行うほか、室蘭線の利用者が沿線の指定店舗を利用すると、オリジナルのカードを受け取ることができる「ご当地カードラリー」を実施します。ご当地カードは全部で12種類ありまして、そのうち3種類のカードを集めると、安平町とむかわ町の道の駅でプレミアムカードを受け取ることができることとなっています。

今ご説明した観光促進事業は、同じく黄色線区となっているJR日高線とも連携した事業としております。室蘭線と日高線、ちょうど苫小牧市で重なってまいりますので、厳密には岩見沢－沼ノ端間と苫小牧市と日高線になりますが、連携した取り組みということで、日帰り観光をターゲットとした取り組みの実証として行うこととしています。

最後になりますが、室蘭線の通勤・通学定期券をお持ちの方が、定期券を見せることで、並行バス路線に乗車できる「モーダルミックス」の実証事業を行うこととしています。この事業についてはJRと並行するバス路線の共存を図る意味でも有効な手段の一つである一方で、バスの利用が混雑する時間帯においては、バス1台に全ての人を乗車させることができないことも考えられますので、室蘭線のうち胆振管内を走るあつまバスと、安平町の循環バスでのみ実施することとしています。

以上の4つの事業のうち、ご当地カードラリーなどの観光利用促進のための事業、それとモーダルミックスの実証事業については、明日7月29日から9月30日までの期間に行うこととしています。アンケート調査や共通時刻表の配布についても、8月上旬より順次、事業を進めてまいります。

＜質疑応答＞

（北海道新聞）

まずそもそもという部分のご質問になって恐縮ですが、この調査・実証というのは将来的に何を見込んだ、バスと連携してやはりその線路を維持していくという、その考えが念頭にあって、ということなのでしょうか。

（市長）

念頭にあるのは、持続的な鉄道網の確立ということになるかと思います。維持、確立になる訳

ですが、そのためには並行するバス路線のことも含めてやはり交通網としていろいろ検討していかなければならない、そのための一つの方策として、先ほど申し上げたモーダルミックスというような考え方で、初めて取り組む内容になりますが、実施をすることになります。

（北海道新聞）
　共通時刻表というのは、これまでなかったものを新たに作っているということでよろしいでしょうか。
（市長）
　はい。これは初めての取り組みになります。今はまだ最終形ではありませんが「室蘭線鉄道バス共通時刻表」ということで、例えばバスの時間と、それに接続するJR接続ですとか、その方面ですとか、そういったものを一つにして、より利便性を高めた時刻表として活用いただければというものになります。

（北海道新聞）
　路線バスと連携した1日散歩きっぷですけれども、これは乗車可能な路線バスが、基本的に駅から駅に通じるようなところでバスに乗れるということなのでしょうか。そのまちからいろいろな路線に乗れるというような感じではなく。
（企画財政部長）
　JR路線に沿って走るところが基本になります。少しずれるものもあるかもしれませんが。岩見沢近くであれば岩見沢から由仁駅前まで、ほぼ並行して走るような路線ということで、全て沿って通る訳ではなく、少し違う道も、例えばバスでは教育大学の方を回って行くということもありますので、そういったところは乗れる形になるかと思います。

（北海道新聞）
　ご当地カードラリーですが、この枚数に限りがあるということですけれども、何枚というのは。
（企画財政部長）
　各駅600枚と聞いています。乗降の多さに関わらず一律ということで。
（北海道新聞）
　なくなり次第終了ということで。
（企画財政部長）
　そういうことですね。はい。

（朝日新聞）
　モーダルミックスの実証事業で、あつまバスと安平町循環バス、これだけに限ったのが、先ほど市長からも、他だと混雑で乗り切れない可能性があるというお話があったと思いますが、そう

いったところで逆にやりたかったのでしょうが、やはり難しいのでしょうね。

（市長）

そうですね、初めての取り組みですので、そういった意味では、利用する方がバスの乗車定員をはるかに超えるようなことが発生してしまうと、実証自体もできませんので、そこは慎重に考えながら、十分利用可能な路線ということで二つの事業者の方にお願いしているということです。

（朝日新聞）

そこは今後、確かめる方法というのは何かあるのでしょうか。どういった、どれぐらいの需要があるかというところをエリアで確かめる、という方法、何か他に代替策というのは。

（市長）

実際に乗車されて、それは全部集計した上で分析をして、次の展開、アクションプラン全体の方にどう反映するかということになりますので、それは確認できると思います。

（朝日新聞）

なるほど。あつまバスと安平町循環バスである程度需要がこれぐらいあるということが分かれば、他のエリアもこれぐらいあるだろうという推測が。

（市長）

そこまでの推計というよりは、どういう、例えば不都合が起きたとか起きないとか、利便性がより高まったとか、あるいは通常時よりも乗車する方が多くなったとか、そういったことを含めて、今度は別の駅でどういったモーダルミックスが可能かどうかと、そういう検討の材料に、資料といいますかデータにはなってくると思います。

【マイナンバーカード関連】証明書等のコンビニ交付について（資料なし、情報提供）

（市長）

私から一点だけ、前回もマイナンバーカードの関連で最後に付け加えて報告させてもらったのですが、実は岩見沢市は7月3日から、コンビニ交付サービスを停止しています。

サービスを契約しているのは富士通 Japan ですが、富士通 Japan のシステムを使っている自治体で不都合が起きた、支障案件が出たということで、7月 3 日から止めている訳ですが、安全性を担保するためのシステム停止ということになります。

いろいろ今調整を進めておりまして、現段階では、8 月 4 日に岩見沢市のシステムに修正プログラムを適用する、適用して点検をして、問題がなければ8月5日の6時半から再開をする予定です。

＜質疑応答＞

特になし

3　その他記者から質問

＜質疑応答＞

（北海道新聞）

JR 室蘭線に絡んで、調査実証事業の内容とは別の部分だったので、先ほど質問しなかったのですが、改めて、黄色線区ということで今年度中にある程度議論を進めなければというような状況がある中で、岩見沢市としてはどういう、地元の費用負担のことだったり、今後の議論の進め方だったりを考えていますか。

（市長）

今日午前中に、持続的な鉄道網の確立に向けた知事と沿線首長の意見交換会が札幌でございまして、私も出席をしてきたのですが、その中で室蘭線のことについてもいろいろ申し上げてきました。

室蘭線は特性として、人流に関しては通学者の利用が多い。朝、夕方、それぞれ 100 人を超す利用がありますので、100 人を公共交通として輸送する場合、鉄道というのは非常に有効な手段ですので、人流という面でもやはり鉄道が必要だという認識と、それから室蘭線は重要な貨物輸送の一翼を担っています。他に石北線とか函館線とかいろいろある訳ですけれども、特に北海道の農産物を本州等々に輸送する際に、モーダルシフトの必要性とか環境対策とか、いろいろな側面がありますが、やはり全国的な貨物輸送のネットワークの中で室蘭線の果たす役割というのは非常に重要ですということで、貨物輸送というその特性にも着目して、総括というか、今後の方向性は必要だと考えています、というようなことを申し上げてきました。

ただ、今、各沿線の協議会では観光利用ですとか利用促進ということで、室蘭線も利用促進ということをやっておりますけれども、利用促進だけで赤字の抜本的な対策になるかというと、それはどこの線区も非常に厳しい状況だと思っています。ただそれぞれの地元沿線の自治体としてできることはもう最大限やった上で、やった上で国の支援、道と連携をしながら国の支援、そういったものがしっかり必要であるというようなことを申し上げてきました。

（北海道建設新聞）

北海道次世代半導体産業立地推進連絡会議市町村ネットワークの組織の一員として、岩見沢市もそのネットワークに加わっていますが、前回の記者懇談会の時も市長からお話がありましたけれども、改めてそのラピダスの千歳進出の波及効果についてどのようにお考えなのかというのをお話いただければと思います。

（市長）

やはり一つの、これからの大きな北海道の発展の方向性を、形付ける起点になるのだろうというふうに思っています。半導体の製造ということで、経産省を含めての国家プロジェクトの一環を担うということになろうかと思いますが、その中で北海道の役割というのを十分果たしていく、そういった大きな可能性を秘めたプロジェクトであると認識しています。

また製造工場のある千歳に限らずいろいろなネットワークを通じて近隣の自治体等々も含めて連携していく。半導体の製造だけでなく、半導体人材、というよりは岩見沢市の場合デジタル人材ですけれども、そういった意味でいろいろ連携していくところはたくさんあると思っておりますし、熊本での先行事例等々もありますけども、近隣佐賀や福岡なども含めたそういう事業展開をされているのも見ておりますし。ただ、詳細はまだこれからです。ですが、十分連携して事業を進めていくことができたらというふうに思っています。

（注）この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：総務部秘書課広報係）